Safety & Tomorrow 220
ISSN 2433－8214

業務紹介

【開催報告】第34回危険物事故事例セミナー

事故防止調査研修センター

当協会主催の「第３４回危険物事故事例セミナー」は、令和７年２月２１日に東京会場にて、令和７年２月２７日に大阪会場にて、それぞれ開催し、危険物行政に携わる消防職員や日頃、危険物の取扱い等の業務に携わっている事業所の方など、１９４名の方々にご参加いただきました。

今回のセミナーでは次の４題について、ご講演いただきました。

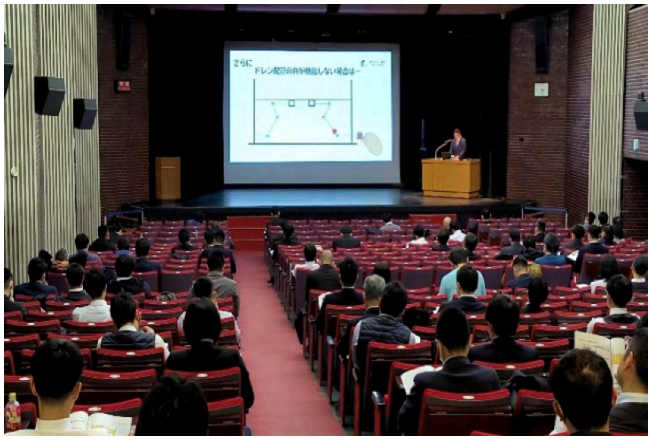
1) 大分市消防局 予防課 参事 田口 誠司 様から「触媒充填中に発生した火災～非定常作業時のリスクアセスメントの重要性～」と題して、設備停止中、危険物製造所の反応器内に触媒を充填する作業において火災が発生し、機器の焼損は無かったものの、作業員２名が熱傷を負った事例についてご紹介いただきました。

2) 倉敷市消防局 危険物保安課 消防士長 阿部 翔太 様から「落雷による火災事故～危険物配管のフランジ部から出火～」と題して、落雷により屋外タンク貯蔵所付属の配管フランジ部から重油が流出し、火災が発生、周辺のポンプ、配管及びラック等に延焼拡大した事例についてご紹介いただきました。

3) 横浜市消防局 予防部 保安課 危険物保安係 主任 岸野 寛章 様から「屋外タンクの危険物流出事故」と題して、防油堤内の漏えい検知設備の発報により流出を覚知し、緊急遮断弁を閉止したが、タンク本体側の配管が穿孔していたため、多量の原油が流出した事例についてご紹介いただきました。

4) 消防庁消防大学校消防研究センター 火災災害調査部長 畑山 健 様から「令和６年能登半島地震による石油タンクへの被害・影響と地震動の特徴」と題して、令和６年１月１日に発生した能登半島地震による石油タンクが受けた被害・影響とその原因となった地震動の特徴について解説していただきました。

当協会では、これからも危険物の保安対策の推進に役立つセミナーを企画してまいりますので、引き続きご支援、ご協力くださいますようお願いいたします。





（左：東京会場、右：大阪会場）